

令和7年度 馬込アートギャラリー

熊谷恒子関連常設展「熊谷恒子の世界 第Ⅰ期『いろは帖』」の開催について

■ 展覧会内容

今年2月に開館する馬込アートギャラリーは、区民から寄贈された大田区ゆかりの作品を所蔵・展示し、地域の創造力を育む施設です。熊谷恒子記念館から徒歩2分程度にある馬込アートギャラリーの2階展示コーナーにおいては、書家・熊谷恒子（1893～1986）の愛用品を通して、かな書家としての歩みを紹介する常設展を設置します。恒子は、代々医者の家系である江馬家の次女として京都生まれ、昭和期に女性かな書の第一人者として活躍しました。

恒子は、1914年に熊谷幸四郎との結婚を機に京都から東京へ転居します。1936年には大田区に自宅（現・熊谷恒子記念館）を構え、晩年まで暮らしました。恒子が生前に住んでいた自宅を改装した記念館には、1947年に「涵清居（かんせいきよ）」と名付けられ、恒子が日頃制作していた書齋があります。記念館では、当時の雰囲気再現し、所蔵作品を展覧会にあわせて公開・展示しています。バリアフリーが整備された馬込アートギャラリーの常設展では、「いろは帖」や書道具類を中心に示し、記念館を飛び出して恒子の経歴や関連資料を解説します。

『いろは帖』は、熊谷恒子が1956年に大東文化大学の講師に就任した際、教材として作成されました。「いろは歌」は、「色は匂へど散りぬるをわが世誰ぞ常ならむ有為の奥山今日越えて浅き夢見し酔ひもせず」という四十八字を使って詠まれた詩歌です。かな書の基礎である「いろは」について、恒子は「わずか四十八文字で、見た目にはむずかしそうに思われませんが、さて書いてみると直線、曲線、筆のとめ方、筆の力の抜き方、筆圧の強弱、細かく研究すればさすが基本だけあって、書に関するすべての掟が備わっています」と述べています。

本展では、日頃から揃えていた「筆、硯、紙、墨」の文房四宝の他に、文鎮や水滴、書道具箱など恒子の愛用品とともに、五禾書房が1957年に発行した『いろは帖』の複製や「いろは歌」の草稿などを展示します。かな書家として活躍した恒子の書の優美さをお楽しみください。

■ 会期

2026年2月1日（日）～年6月28日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

休館日：毎週月曜日（2月23日（月・祝）及び5月4日（月・祝）は開館し、2月24日（火）及び5月7日（木）に休館）、1階展示替え休館（5月11日（月）～5月22日（金））

入館料：無料

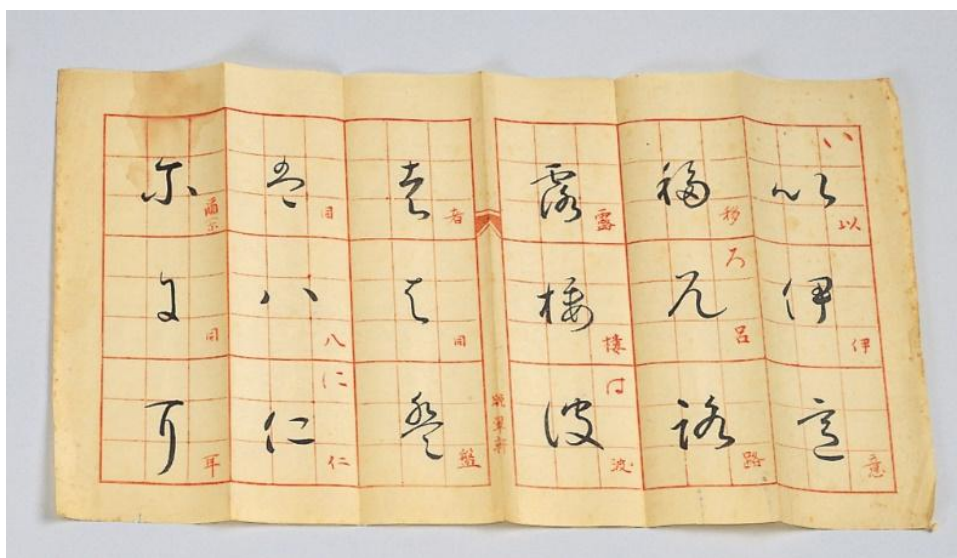
■ 会場

馬込アートギャラリー 2階展示コーナー 大田区南馬込 4-10-4 （交通案内は3ページをご覧ください。）

■主な出品作品

な た ろ 一 い
ら れ を と ろ
む そ わ ち は
う つ か り に
る ね よ ぬ ほ

熊谷恒子『折手本いろは帖』1957年 五禾書房刊行、大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子「(原稿)いろは歌」、大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子所用《水鳥形水盂》
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子所用《南瓜形書鎮》
大田区立熊谷恒子記念館所蔵

